

犬・猫の ワクチン

今回はワクチンについてお知らせします。
基礎的な内容であるため既にご存知かと思
いますが、ご参考にして頂ければと思います。

【犬・猫のワクチン】

★ワクチンとは

毒性をなくした病原体（無毒化）や、病原性を、弱めた病原体（弱毒化）を
体に入れて免疫力（抗体）をつけるものです。

病原体ごとに抗体が作られるので抗体を得たい病原体の入っている
ワクチンを選択して接種することが必要です。

★犬のワクチン

①狂犬病ワクチン(狂犬病予防法で接種義務)

現在日本は清浄国であるため、狂犬病を軽視しがちです。

しかし世界では汚染国が広がっており、清浄国であった台湾も

近年汚染国となりました。いつ日本に入ってくるか分かりません。

人畜共通伝染病であり致死的な病気です。必ず接種してください。巡回時に接種可能です。

②混合ワクチン(任意)

法律で義務付けられてはいませんが、感染すれば重大な健康被害に繋がる感染症です。

子犬に免疫力（抗体）をつけるためには母犬にワクチンを接種して

母犬の免疫力を高めておくことが重要です。

・ワクチンで予防される感染症(6種)

- 1:犬ジステンパー：子犬に多く発症し、感染率・死亡率ともに高く神経障害あり。
- 2:犬伝染性肝炎：幼齢期の突然死の原因となる。眼の白濁、発熱、腹痛などの症状。
- 3:犬パルボウイルス：伝染性が強く、症状が急速に進行して死亡することが多い。
- 4:犬パラインフルエンザ：ケンネルコフと呼ばれ、子犬の代表的な呼吸器疾患。
- 5:犬伝染性喉頭気管炎：咳が長く続くことが多い。上記と同様ケンネルコフの原因。
- 6:犬コロナウイルス：下痢・嘔吐が見られ、パルボとの混合感染で重篤化する。

★猫ワクチン

猫も母猫のワクチン接種により子猫に抗体が移行します。

・ワクチンで予防される感染症(3種)

- 1:猫カリシウイルス：口内炎や舌炎が特徴。低抗性の弱い仔猫に多く発症。親は低抗性をもつ。
- 2:猫ウイルス性鼻気管炎：上部呼吸器感染症。肺炎や妊娠猫では流産の恐れもある。
- 3:猫汎白血球減少症：致死性伝染性が高く、心筋型と腸炎型がある。心筋型では突然死もある。

幼齢期の免疫力は、初乳から母親の免疫力（抗体）をもらうことで得られます。

子犬・子猫を感染症から守ために母親へのワクチン接種は重要です。

犬舎を感染症から守るために父親を含む犬舎内全頭へのワクチン接種を推奨します。



☎03-5646-6894 FAX 03-5646-5822

URL <http://www.ahb.jpn.com>

AHB

〒135-0042 東京都江東区木場 3-7-1 1

契約ブリーダー様の母犬ワクチン巡回を行っております。株式会社 AHB 担当 BioPlus ファーマシー
詳細は担当バイヤーへお問い合わせください。